

私立 山陽女子短期大学

取組名称 学生のキャリア形成と就職支援の体制強化

取組担当者 就職指導部長 西本 満策

1. 本学の概要

山陽女子短期大学は、1929(昭和4)年の山陽高等女学校の創立に始まる山陽女学園内に、1963(昭和38)年に設立された長い女子教育の伝統を誇る短期大学である。伝統を守りつつ、時代の変化にも対応する教育を続けてきた結果、現在、地域社会と地域企業に密着した短期大学として、高い評価を得ている。

現在は、人間生活学科、食物栄養学科、臨床検査学科の3学科あり、計368名の学生が学んでいる。本学の建学の精神は、「個性豊かにして、自国の発展と世界の平和を念願する人間を育成すること」である。この建学の精神を踏まえ、次のような教育理念を掲げた。

「本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、高等学校教育の基礎のうえに、山陽女学園伝統の精神に基づいて大学教育を施し、徳性の涵養に努め、人格円満にして教養の高い婦人を育成することを目的とする。」この理念を堅持しつつ、時代の変化に即応して次の三つの教育目的を掲げた。

- ①健康・福祉・医療を核とした教育の推進
- ②社会に貢献する人材の育成
- ③地域社会における生涯教育の拠点化の推進

これらの目的を達成するために、授業内容の充実はもとより、学生の社会的常識やマナーの涵養、学外実習の強化、健康・福祉・医療の分野における高度な知識・技能の教授等に努めている。また、学生が積極的に地域社会と関わりを持つように、地域企業とのコラボレーションの試み等も推進している。

2. 本取組の概要

本学は、地域社会と地域企業に密着した短期大学、医療分野における社会の要請に応える短期大学を目指し、就職指導においても地域と密着した取組を推進している。本学の三つの教育目的を受けて本取組では、地域の活性化を活動目的とし、廿日市商工会議所、地元企業との協調関係を構築し、学生が積極的に地域社

会との関わりが持てるように支援していく。そのために、具体的には学生の社会的常識やマナーの涵養、学外実習の強化、健康・福祉・医療の分野における高度な知識、技能の教授、環境の整備・強化を図る。3学科の即戦力となる知識と教養、技能を持った人材育成は、次のとおりである。

人間生活学科では、人間生活を営む上で不可欠な、幅広い知識と技能を修得する。各コースの専門に即応した知識・技能を有した上で、社会人・生活者としての常識と判断力を備えた、実社会で通用する職業人を育成している。

食物栄養学科では、食に関する幅広い分野の知識と社会に通用する技能を修得する。激変する食事情、食環境の中で、安全な食品をおいしく、栄養的に、調理する知識と技能を学ぶとともに、自ら考え、実践できる食の専門家を育成している。

臨床検査学科では、医療を支える臨床検査技師に必要な知識と技術を修得する。医療の現場において、その診断・治療に欠くことのできない臨床検査データを提供する高度な臨床検査技師の養成と、同時に患者様の心が分かる医療人を育成している。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

本学は1963(昭和38)年に廿日市に設立された伝統ある短期大学であるにも関わらず、今まで廿日市商工会議所、地元企業、医師会等との積極的な関わりがなかった。そのため本学の学科、コース等周知されず、地元企業からの求人が少なかった。本取組を通して地元企業との関係強化を図るとともに、商工会議所を通じて地域密着型の就職支援体制の強化を図るものである。また、臨床検査技師、栄養士、調理師、医療事務員等の専門知識の実践体験のためのインターンシップの制度化の充実を図るとともに、相談員の配置による学生のキャリア形成の促進を図るものである。

地域密着型の就職支援体制の強化を達成するため

に、地元企業へのリクルートガイドの発送による求人情報の収集に加えて、県外からの入学生にもより多くの情報が提供できるよう広く既就職先、求人先、ハローワーク等を訪問し、得られた情報を基にUターン就職希望者に対してきめ細かい就職指導ができるようにする。また、学生が求人企業に関する情報調査や就職情報の検索・情報整理を行うためのパソコンとプリンターを整備するとともに就職相談員を配置し、企業訪問や自己研修のためのDVDビデオ活用への助言を行うなど、就職活動の支援体制強化を図るものである。

(2) 達成目標

本取組では臨床検査技師、栄養士、調理師、医療事務員等の専門コースの就職先の確保を目的として、各資格者を必要とする事業先について調査を行い、地元求人の比率アップの達成を図るとともに専門就職先の確保を目的とするものである。

2010(平成22)年卒業生の専門就職率は以下のとおりである。

- ・臨床検査学科の卒業生の専門就職率100%
- ・栄養管理コースで栄養士免許を取得して病院・保育園・食品研究開発等の職に就いた率81.3%
- ・栄養調理コースで調理師免許を取得して保育園・福祉施設・病院等の職に就いた率81.3%

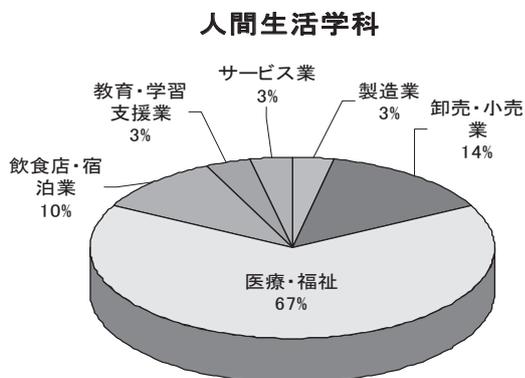


図1 人間生活学科の産業種別就職状況

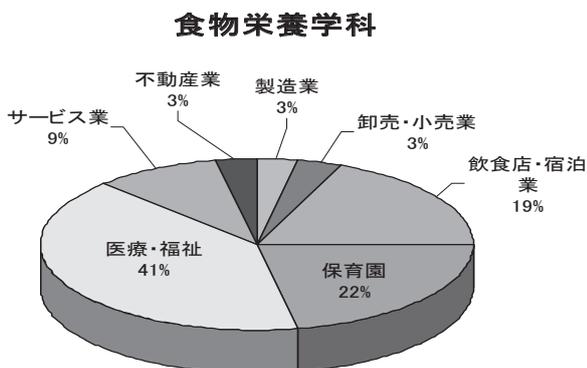


図2 食物栄養学科の産業種別就職状況

臨床検査学科

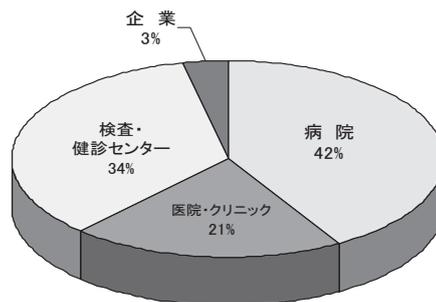


図3 臨床検査学科の事業所別就職状況

・医療事務コースで医療事務の資格を取得して病院等に就職した率82.6%

2010(平成22)年卒業生の人間生活学科と食物栄養学科の産業種別就職状況は図のとおり医療・福祉が大半である。臨床検査学科の図は事業所別就職状況である。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

本取組は、選定された就職支援プログラムにおける「学生のキャリア形成と就職支援体制の強化」について、地元廿日市市において地域密着の就職支援の一層の充実・発展を目指す取組であり、具体的な内容は以下のとおりである。

- (i) 1年生を対象としてフレッシュマンセミナーを行い、マナーと話し方、自己の適性にあった卒業後の進路選択の方法、就職活動の仕方や試験対策、就職の心構えを学ぶ。2年生を対象としてはキャリアアップセミナーを行い、1年次のフレッシュマンセミナーで学んだことをステップアップし、就職活動のためのより実践的な勉強を行う。会社訪問のための身だしなみとマナーについてのセミナー、企業の求める人材や企業研究、職場での心構えやマナー等を学外講師から学ぶ。
- (ii) 地元廿日市市の商工会議所やハローワーク等の相談員による就職相談を1日当たり3時間、1月当たり20日間の内容で年間11ヶ月を二人雇用の上交代勤務で実施する。
- (iii) 「活躍する卒業生から聞く就職活動について」と題してOG懇談会を実施する。卒業生6名に参加してもらい、各自の就職体験報告会(どのような働き観を持って就職活動をしたか・組織の中での自分の役割・社会人として見る学生の姿・資格保有者として大切なこと等)を開催する。

(iv) 地区外（福山市、岡山市、松江市、浜田市）ハローワーク、卒業生の就職先や求人依頼先企業を訪問し、求人情報の実地調査を行う。また、他大学の就職支援への取組状況や就職に関する情報収集のため、財団法人私学研修福祉会が主催する私立短期大学就職担当者研修会に参加する。

(v) インターンシップを夏季休暇中の7月～10月にかけて5日間から10日間実施する。

(vi) 学生のキャリア形成を目的として、廿日市商工会議所、廿日市ハローワーク等の協力を得て主体的な進路を選択する能力開発や人材育成のための講座やセミナーを7月に2回、10月に2回実施する。

(vii) 後期のフレッシュマンセミナーで使用する就職の手引きを10月に作成する。

(viii) 各学科長の意見を取り入れ、地域社会や医療分野に貢献できる学生を育成している学校であることをアピールできるリクルートガイドを作成し、地元就職対象事業所へ発送する。

(2) 取組の実施体制

本取組の運営に当たっては、学長を中心とした就職指導委員会を中心に、各学科長も参画しながら取り組んでおり、就職支援体制の進捗状況は、拡大教授会（助手、事務職員を加えた全教職員を構成員とする会議）で報告する。よって就職課題を全教職員が共有することができ、支援強化が可能な体制となる。各学科の教員と就職指導部スタッフからなる就職指導委員会を原則毎月1回開催している。就職指導委員会所属の教員は、各学科に学生の就職状況、活動状況、求人情報を持ち帰り、全教員が就職情報を共有化し、学生からの就職相談の迅速な処理や対応できる体制の強化を図る。

5. 本取組の評価体制・評価方法

本取組では就職指導部を中心に、評価委員会を設置するとともに地元企業への定期的訪問や、実習、インターンシップ実施時の機会を活用し、深耕を図る。そして定期的に会議を開催し、地元企業からの求人状況が把握できる評価体制を構築する。また、2009(平成21)年度地元企業からの求人票数と地元企業への就職者数をベースに2010(平成22)年度以降の求人票と就職者数の増加により達成度を評価する。2008(平成20)年10月、過去5年間の地元専門就職先を抽出の上、卒業生に対する勤務状況に関する評価アンケート調査を実施した。依頼先数89社に対して、回答先数47社、回答率52.8%

であった。アンケートは、①業務上必要な知識・能力・技能を本学卒業生がどの程度獲得していますか。②本学卒業生の社会人としての礼儀作法・マナーをどのように評価しておられますか。③評価要素（サービス・就業活動・業務能率・成果）を見て本学卒業生の総合的な職務遂行能力をどのように評価しておられますか。の3評価項目について行った。各項目とも「期待した水準を上回る」と「期待した水準」を合わせて90%以上で、きわめて満足すべき成果であった。

表1 卒業生に対する評価

評価項目	期待した水準を上回る	期待した水準	期待した水準を下回る
1	22.5%	67.5%	10.0%
2	27.5%	62.5%	10.0%
3	27.5%	65.0%	7.5%

開学依頼、「地域社会や医療分野に貢献する即戦力となる知識と教養、技能を持った人材の育成」を目指して、栄養士・調理師・医療秘書実務士・臨床検査技師・訪問看護師等の養成をしてきたが、その結果として多くの卒業生が病院、保育園、福祉施設、食品研究開発等で活躍している。これらの卒業生の評価は、概ね良好であると判断している。特に栄養士の職に就いている者の中には、栄養課管理者として活躍している者も多く、社会的評価は高いと認識している。

6. 本取組の実施計画等

補助事業の目的を達成するために、以下のような実施計画を立てた。

(1) 1年生を対象にした就職支援講座フレッシュマンセミナーの開講

- (i) 女性の職業観
- (ii) 進路について（就職意識調査）
- (iii) 就職に向けての学生生活の過ごし方
- (iv) 職業適性検査
- (v) 自己分析・自己PR
- (vi) SPI対策講座
- (vii) 新聞の読み方
- (viii) 就職活動に向けての自分磨き（今から気をつけるマナー）

(2) 2年生を対象にした就職支援講座キャリアアップセミナーの開講

- (i) 企業が求める人材
- (ii) 就職活動に必要なマナー（社会人としてのマナー）
- (iii) 活躍する卒業生から聞く就職活動について
- (iv) 業界別企業研究
- (v) 就職活動に向けての身だしなみ
- (vi) 応募書類の書き方（成功する就職活動）
- (vii) 職場で女性の果たす役割
- (viii) 失敗しない就職術
- (ix) 自分磨きをして社会に貢献できる人材になろう
- (x) 実践面接指導
- (xi) 21世紀の女性の職場作り

*本セミナーは必修科目とし単位化とした。当日、学生はリクルートスーツにて学び講師に対し礼を尽くし、節度ある態度をとることとしている。

(3) 求人企業に係る情報調査や就職情報の検索・情報整理のための機器の充実整備

パソコン2台とプリンター1台増設し学生が順番を気にしなくてすむようにした。

(4) 就職相談員（2人での交代勤務）の配置導入

9月までは10:00～13:00までの3時間対応で実施した。本学の就職活動は医療・福祉が大半のため後期に集中する。そのため10月より就職相談員1名増員し、午後から就職相談ができる体制を考えている。



写真1 就職相談の様子

(5) OG（卒業生）懇談会

2年生を対象とし、就職意識の高揚を図るためキャリアアップセミナーにて実施する。



写真2 OG懇談会の様子

(6) 就職支援体制強化のための情報収集及び地元地域外（福山市、岡山市、松江市、浜田市）へのリクルート調査

地区外においては学生ハローワークを必ず訪問し振興を図る。

(7) インターンシップ

医療秘書実務実習先として、24の施設に依頼し、人間生活学科・医療事務コース41名の学生がインターンシップに参加した。

(8) キャリア形成支援セミナー（就職ガイダンス・セミナー）

7月にハローワークから講師を派遣してもらい、「夏休みを前にしてこれからの就職活動」と題して2年生を対象にセミナーを開催した。また、廿日市商工会議所の紹介講師による未内定者セミナーを開催した。10月11日にも、ハローワークの協力を得て就職セミナーを開催する。

(9) 就職の手引きの作成

就職活動全般における基本的な情報であるマナー・過去の主な就職先・年間スケジュール等を掲載する。

(10) リクルートガイドの作成と発送

廿日市商工会議所会員の対象事業所250先と廿日市医師会会員150先に送付する。

本取組では地元企業への密着度の効果を実証するため、まずリクルートガイドの送付から始め、実習、インターンシップの実施を依頼し、年間のスケジュールを立てる。計画実施に伴い評価をいただき、その評価を基に学生の就職支援をしていく。実習、インターンシップの事前研修としてマナーの基本と就職意識の高揚をビデオにて習得する。

本取組実施後、効果に有効性が認められる施策については、補助期間終了後においても本学の予算で継続的な取組とする。